

はじめに

令和4度から令和6年度に渡る3年間の総合科学部及び大学院総合科学研究科の教育活動、研究支援ならびに管理運営業務に関する自己点検・評価実施報告書が完成しましたので、ここに公表します。

広島大学総合科学部は、昭和49(1974)年に人間性、創造性、総合性の三つの柱を理念に設立されて以来、既存の学問分野の枠にとらわれない文理融合の教育研究を通して、多彩な人材を輩出し、学際的な学部教育を半世紀以上に渡って行ってきました。この実績を土台として、平成18年には大学院総合科学研究科を設置し、21世紀社会が直面する複合的諸課題に取り組み、学際的・文理横断型の教育研究を実施してきました。その後、大学院の統合、再編に伴い、大学院総合科学研究科は令和元年度を最後に募集を停止しましたが、現在も在籍者が総合科学の実践に勤しんでいます。

令和6年度には、総合科学部は創立50周年を迎えました。その年は、社会で活躍する多くの総合科学部同窓生にお会いする機会を得ました。彼・彼女たちの活躍が、総合科学部の教育の成果であり、総合科学部の実績を示すこれ以上ないエビデンスであることは言うまでもありません。

とはいえ、教育・研究活動、及び管理運営業務の自己点検を定期的に行い、諸活動の現状を把握し、自己評価することも大切です。急速に変容しつつある社会の中で、「志願者が入学したい総合科学部」、「卒業生が社会から求められる総合科学部」を維持していくためには、諸活動の最適化を常に行う必要があるからです。

本報告書は、その必要性に資する重要な資料となります。報告書には、総合科学部の諸活動を記録した資料及び大学院総合科学研究科の教育活動の一部が纏められています。加えて、現状の分析が行われ、今後の方針までもが検討されています。本報告書が、これからの総合科学部の在り方を考えるために役立つことを心より願っています。

末筆になりましたが、本報告書の作成に当たってご尽力いただきました関係各位、両学科長、学部教務委員会委員長、学部評価委員会委員長や委員の方々、総合科学系支援室の皆様にご礼申し上げます。

令和8年3月

広島大学総合科学部長

山田 俊弘